

第 11 回 沖縄県アンダー40 設計競技 ティードフラッグス 2022 審査講評

県内の若手建築家を対象とするコンペも 11 回目を迎え、今回は、46 点の力作が提案されました。今回のコンペは、対象施設である展望台が海軍壕の上にあるということで、ただの展望台ではないことがポイントだったかと思います。

今回も若手らしい斬新でユニークなアイデアと課題に対する真摯な取組みが強く感じられ、非常にレベルの高い優れた提案がなされました。そうした中から一次審査では、課題に対する解決力、実施案としての実現可能性、さらにはプランの表現等を審査員で熟議し、7 作品を最終審査の対象としました。

最終審査では、公開でのプレゼンテーションと質疑応答を実施し、選考委員による公開での投票の結果、金賞（作品番号 1）、銀賞（作品番号 37）、銅賞（作品番号 12）の 3 作品を選出しました。

金賞（作品番号 1）の作品は、印象的でシンボリックな案であり、石積みを採用し、そこに植栽を這わせる計画とすることで、長い年月をかけて変容していき自然と調和していく様（さま）に、沖縄らしさも感じられ、海軍壕公園の持つ歴史的な背景にも適したデザイン性が高く評価されました。

銀賞（作品番号 37）の作品は、シンプルな形状で、さらに柱を細くすることで景色をさえぎらない開放的な計画であり、3 つある屋根が時間毎に様々な表情を見せる影の変化について評価されました。

銅賞（作品番号 12）の作品は、階段から展望台までの軸線が明快なアプローチ計画や、展望台からの視線を誘導するプランを高いデザイン性の中で明確に反映されている点などが評価されました。

また、今回も 6 つの学生作品の中から学生賞 1 点を決定しました。

学生賞（作品番号 19）の作品は、3 枚の壁と開口の構成でシンプルながら、単純に景色を切り取るのではなく、重なっている部分もある等、建物としてのおもしろさ、また詩的なコンセプトをうまく建物に落とし込んでいる点などが評価されました。

公開プレゼンにおいて年々感じていることですが、自分なりの考えを、模型や CG 等を使って明快に説明していてプレゼンテーション能力の高さに大変驚いており、沖縄建築界の躍動する将来を感じさせるコンペとなったかと思います。

本事業に参加された皆様、そして事業を推進された沖縄県、並びに沖縄県建築士会に感謝すると共に、沖縄建築界の益々の発展を祈念いたします。

選考委員長 伊礼 智（有限会社伊礼智設計室 代表取締役）

